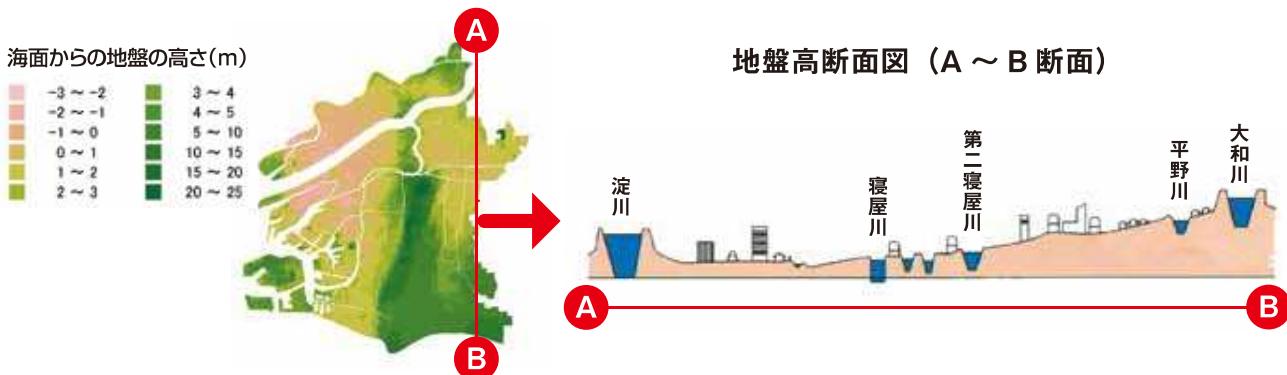


第2章

風水害に備える

大阪市は水害に弱い地形

なにわはっぴやくやばし
大阪市には多くの川があり、江戸時代には「浪華八百八橋」と呼ばれるなど水の都として発展してきました。弥生時代まで遡ると、現在の市域の半分まで海が広がり、内陸部でも湖が広がっていました。このような成り立ちから、市街地の多くが低地で水害に弱い地形といえます。



大きな被害をもたらす台風や集中豪雨

台風は、7月から10月にかけて日本に接近・上陸するものが多く、強い風とともに広い範囲に長時間にわたって大雨を降らせます。また、台風が接近して気圧が低くなると海面が持ち上がり、さらに強風によって海水が海岸に吹き寄せられて海面が高くなる高潮が発生します。

そのほか、近年、限られた地域で短時間に降る、いわゆるゲリラ豪雨による浸水被害が多発しています。この集中豪雨をもたらす積乱雲（入道雲）は短時間で急激に発達するため、突発的に大雨が降ります。



想定される水害

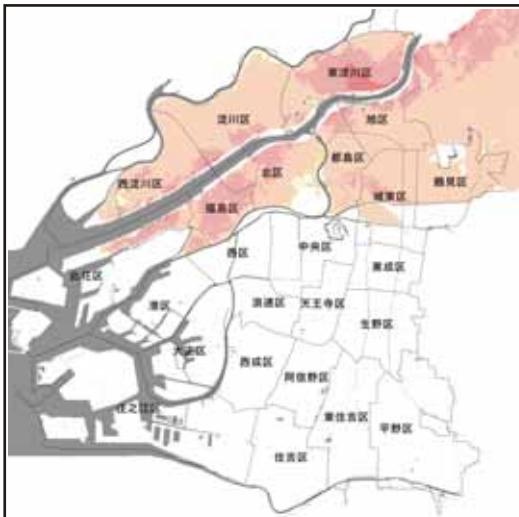
大阪市で想定されている水害は、河川氾濫、内水氾濫、津波の3種類です。

- ①②③④ 河川氾濫… 河川水位が堤防より高くなったときや、堤防が壊れたときに河川の水が市街地などに流れ込む水害です。
 - ⑤ 内水氾濫…………… 市街地に降った雨が下水道などから排水することができずにあふれ、建物や土地・道路が水に浸かってしまう水害です。内水とは、下水道のポンプによる排水がなければ、降雨を河川へ排水できない地域の雨水のことです。
- ★津波…………… (7ページ参照)

① 淀川が氾濫した場合

①② 浸水の深さ

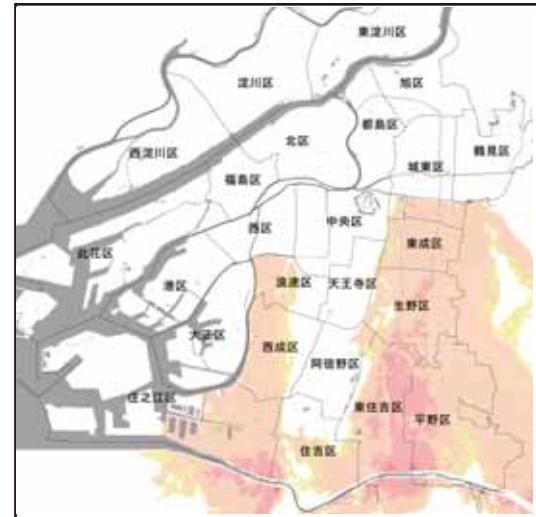
0.5m未満
0.5～3.0m
3.0～5.0m
5.0～10.0m



② 大和川・東除川が 氾濫した場合

③～⑤ 浸水の深さ

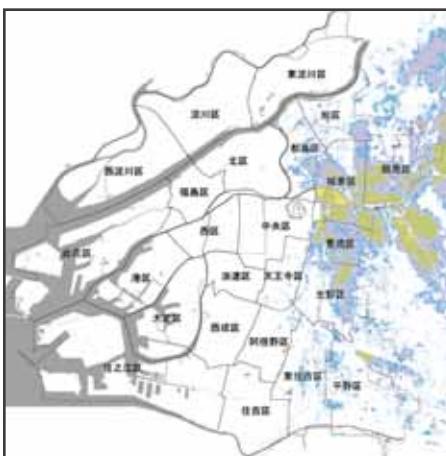
0.1m未満	2.0～3.0m
0.1～0.3m	3.0～4.0m
0.3～0.5m	4.0～5.5m
0.5～1.0m	5.5～7.5m
1.0～2.0m	7.5～10.0m



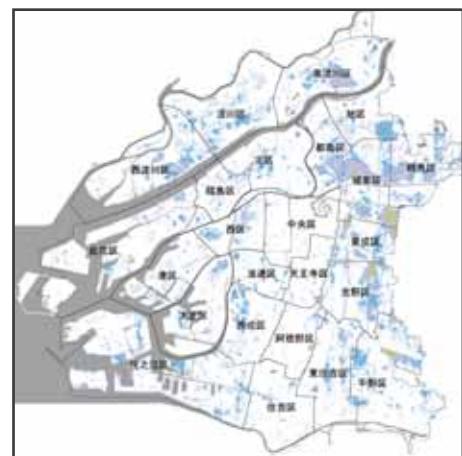
③ 神崎川・安威川が 氾濫した場合



④ 寝屋川・第二寝屋川・平野川・ 平野川分水路が氾濫した場合



⑤ 内水氾濫した場合



詳しくは、危機管理室ホームページ <http://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/> 「津波・水害から命を守るために”水害ハザードマップ”をご覧ください。
「水害ハザードマップ」は、大阪市危機管理室（市役所5階）または区役所で配布しています。

都市型水害の特徴

大都市ではアスファルトで固められた部分が多く、大量の雨水が一気に下水道へ流れ込み、排水の処理能力を超えるマンホールや側溝から地上にあふれ、地下街や地下室を襲う災害も起こっています。

地下にいるときは、安全と思い込まず、雨の降り方や降っている間に気をつけ、外で何が起きているのかを把握するようにしましょう。

階段を流れ落ちる水の勢いは強く、地上への避難は困難になりますので、地下への浸水が予想されるときには早めに避難しましょう。



風と雨の強さ

風の強さと想定される被害

平均風速 (m/秒) 予報用語	想定される被害
10以上～15未満 やや強い風	傘がさせない
15以上～20未満 強い風	風に向かって歩くことができない
20以上～25未満 非常に強い風	車の運転を続けるのは危険な状態となる
25以上～30未満 非常に強い風	樹木が倒れ始める 瓦が飛び始める
30以上～ 猛烈な風	屋根が飛ばされるなど、木造住宅が壊れ始める



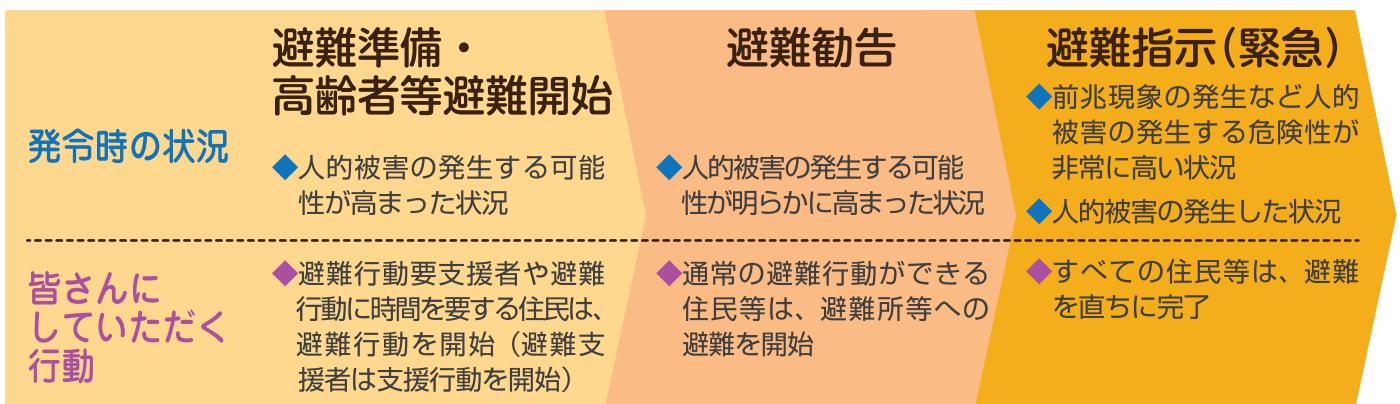
雨の強さと想定される被害

1時間雨量 (mm) 予報用語	想定される被害
10以上～20未満 やや強い雨	長く続くときは注意が必要
20以上～30未満 強い雨	側溝などから水があふれることがある
30以上～50未満 激しい雨	マンホールから水があふれることがある
50以上～80未満 非常に激しい雨	地下街に雨水が流れ込むことがある
80以上～ 猛烈な雨	大規模な災害が発生するおそれがある



大阪市からの避難情報について

大阪市では、防災スピーカーや携帯電話・スマートフォンへの緊急速報メールなどにより、必要な場合に避難情報を発令します。



避難情報の伝達手段

- 防災スピーカー（防災行政無線）
 - 緊急速報メール
 - ホームページ
 - ツイッター
 - おおさか防災ネット
 - テレビ・ラジオ
 - 地元組織への連絡
 - 広報車など
- (注) 防災スピーカーについては、避難勧告・避難指示（緊急）のみ使用します。

防災スピーカーのサイレン（警報音）パターン

市域に設置している防災スピーカーでは、緊急事態の種類ごとに定めたサイレン（警報音）パターンにより、警報や避難勧告、避難指示（緊急）などの放送を行います。

緊急事態の種類	サイレン（警報音）パターン	とっていただく行動
テロやゲリラなど武力攻撃に関する警報	サイレン 14秒吹鳴	屋内に入り、テレビやラジオをつけ、詳しい状況を確認してください。
弾道ミサイル攻撃に関する警報	サイレン 14秒吹鳴	屋外にいる場合は近くの頑丈な建物や地下（地下街や地下駅舎などの地下施設）に避難してください。
大津波警報	サイレン 3秒吹鳴 2秒休止 サイレン 3秒吹鳴 2秒休止 サイレン 3秒吹鳴 2秒休止	海岸や河川から離れ、津波避難ビルなど丈夫な建物の3階以上に避難してください。
津波警報	サイレン 5秒吹鳴 6秒休止 サイレン 5秒吹鳴	お近くの災害時避難所など、安全な場所に避難してください。 ※河川の氾濫など、避難所に避難するより近くの3階以上の建物に避難することの方が安全な場合があります。普段から身を守る行動について確認しておきましょう。
避難指示	サイレン 15秒吹鳴 10秒休止 サイレン 15秒吹鳴 10秒休止 サイレン 15秒吹鳴 10秒休止	お近くの災害時避難所など、安全な場所に避難してください。
避難勧告	サイレン 10秒吹鳴 10秒休止 サイレン 10秒吹鳴 10秒休止 サイレン 10秒吹鳴 10秒休止	お近くの災害時避難所など、安全な場所に避難してください。
緊急地震速報 (震度5弱以上)	緊急地震速報チャイム音	ただちに身を守る適切な行動をとりましょう。

●特別警報について

特別警報は、「東日本大震災」や「伊勢湾台風」などに匹敵する大規模な災害が予想される場合に気象庁から発表されます。

特別警報が発表されたら

- 尋常でない大雨などが予想されています。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ただちに命を守る行動をとってください。

非常事態

大阪市からの避難勧告・避難指示に従いながら避難所に避難！

外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動！

「住居の位置」や「住居の構造」、「既に浸水が生じている状況なのか否か」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が重要です。災害から命を守ることができる行動を考えておきましょう。

Point

冷静な判断が必要です。周囲の状況に応じた行動を！
浸水の中の避難は非常に危険！

特別警報の発表基準

◆ 気象

現象の種類	基 準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	暴風が吹くと予想される場合	
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合	
波浪	高波になると予想される場合	
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

◆ 津波・火山・地震

現象の種類	基 準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合 (大津波警報を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(居住地域)※を特別警報に位置づける)
地震 (地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

*噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」(噴火警戒レベル4または5)を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」(キーワード:居住地域厳重警戒)を特別警報に位置づけています。

(「特別警報の発表基準について」(気象庁ホームページより))